

おわりに

今日の教育界を見ると、まさに改革のうねりの真っ只中といえると思われま

す。今回の学習指導要領の実施を契機に表出してきた諸問題、とりわけ、基礎学力の定着は大きな問題点です。いち早くこのことについて取り組まれている諸学校への様々な改善処置（少人数やTT加配、小1支援など）や統一学力テストによる現状の把握はその広がりを見せ、指導法や指導内容の工夫、改善に確実な成果を上げているやに聞きます。

さらに、中央教育審議会は、指導要領の中で教える内容を制限する記述になっている「歯止め規定」の見直しを提言したほか、体験活動を重視した「総合的な学習の時間」の一層の充実を求めています。その答申を受けた文部科学省は、今年中に指導要領の「総則」を中心に改訂し、来春から実施に移す予定です。

今回の教育研究発表会は、このような情勢の中での開催となります。

今年度は、研究テーマ「創発のある学び舎」を掲げての二年次にあたります。この間、試行錯誤の連続で、検討を加え、実践を重ねてまいりました。

今回の研究紀要は、これまで取り組んできた各教科および道徳や総合学習等、学校教育全般にわたる理論と実践をまとめたものです。皆様は、どのようにご覧になったでしょうか。今回の発表会を機会に、これまでの、そしてこれからの本校の研究に対して、皆様よりのご示唆をいただければ幸いに存じます。

現在、本校のような国立大学附属学校は、厳しい問題を抱えています。国立大学の独立行政法人化、国立大学の統合・再編問題、さらに教育学部の見直し等、学校の存続に関わる大きな課題が山積しています。

私たち教職員は、附属学校としての任務を再確認する中で、大学や他の教育機関とも連携し、地域の中で今まで以上に情報の発信を求められていると感じています。それと同時に、本校は独立行政法人化後の附属学校としての評価を受けながら、益々の改善が要求されてくると思われます。また、本校の教育研究を、地域の諸学校との連携の中で深めていくことも重要になると考えています。そのような意味からも、皆様方の忌憚のないご意見、ご指導を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

平成15年11月20日

金沢大学教育学部附属小学校
副校長 勝田 徹

研 究 同 人

金沢大学教育学部附属小学校
 校 長 島 中 洋 志
 副 校 長 勝 田 徹
 学 内 教 頭 菖 蒲 田 英 夫

国 語 科 社 会 科 算 数 科 理 科 生 活 科 音 楽 科 図 画 工 作 科 家 庭 科 体 育 科 道 徳 教 育 情 報 教 育 保 健 教 育	石 川 誠 山 岸 郁 生 押 野 正 憲 釣 本 直 行 山 岸 朋 子 乘 富 章 子 大 峯 野 郁 代 水 田 一 浩 安 宮 島 浩 八 木 崎 和 美 戸 壽 和 子	山 本 瑞 穂 松 下 浩 一 前 田 倍 成 齊 官 重 治 江 藤 里 佳 今 井 直 人 谷 本 直 克 牧 山 あ 典 横 山 明 子	山 口 久 代 笹 山 明 夫 古 川 雄 次 荒 木 泰 彦 濱 田 弘 一
総 合 領 域 部 会	江 藤 里 佳 宮 島 浩 典 水 野 郁 代	木 戸 壽 和 子 八 崎 和 美 山 岸 郁 生	前 田 倍 成 押 野 正 憲
英 語 活 動 領 域 部 会	乘 富 章 子 安 田 一 志 横 山 明 子	山 岸 朋 子 齊 官 重 治 山 本 瑞 穂	笹 山 明 夫 古 川 雄 次
選 択 ゼ ミ 部 会	濱 田 弘 一 山 口 久 代 谷 本 克 典	石 川 誠 松 下 浩 一 今 井 直 人	大 峯 野 直 行 釣 本 直 行

旧 同 人

三 好 義 昭 三 田 村 英 明 田 川 信 子
 小 林 弘 二 丹 後 京 子 坂 井 文 代